



Vol.25 平成 28 年 1 月号

NPO メンバーの情報共有のためのニュースレターです

新年明けましておめでとうございます。今後とも、会員の皆さまのご支援 ・ご協力をよろしくお願い致します。

これからの予定 :

平成 27 年度水・土壌環境保全活動功労者表彰 : 1 月 13 日 (水) 13:00~

平成 27 年 12 月 18 日、NPO 法人ふらっと南幌は、環境省北海道地方環境事務所の推薦により、「平成 27 年度水・土壌環境保全活動功労者」として、環境省水・大気環境局長から表彰状を授与されることが決まりました。

つきましては、活動拠点である南幌町にて、推薦者の環境省北海道地方環境事務所に来町していただき、役場庁舎内にて授与式を執り行われることとなりました。

集合場所: 南幌町役場ロビー

集合時間: 12 時 40 分

表彰の概要 環境省のホームページより転載

大気環境及び水・土壌環境の保全に関し顕著な功績のあった団体や個人に対し、その功績を讃えるため、環境省水・大気環境局長から表彰状を授与します。環境省地域における河川等の水質浄化、生活排水対策等の普及啓発、水生生物の調査などを通じ、水・土壌環境の保全に関し顕著な功績のあった団体及び個人を表彰します。

評価を受けた主な功績 環境省の報道発表資料より転載

- ・平成 21 年から継続して幌向運河の環境美化 ・清掃活動を行っている。
- ・平成 21 年から開催している水環境学習会に加え、平成 22 年から幌向運河及び周辺の田んぼに幌向で採取したドジョウやヘイケボタルを繁殖させて放流し成長過程を観察するドジョウ環境学習会を開催。
- ・平成 24 年に e-水プロジェクトに「幌向湿原固有種植物の再生・環境保全・活用事業」が採択されたことから、幌向湿原の名を冠した「ほろむい七草」の復活のための研究と生息環境を整えるために必要なオオミズゴケの栽培実験を開始し、現在まで湿原植生再生保全のための啓発活動、オオミズゴケの繁殖技術の確立、泥炭採取跡地の状況等調査を行っている。

ふらっと南幌「新年会」 : 1 月 13 日 (水) 上記の表彰式終了後

日時: 平成 28 年 1 月 13 日 (水) およそ 14 時 ~ 15 時から、2 時間程度

会場: ギャラリー喫茶「風樹」(南幌町栄町 4 丁目 3-20)

会費: お一人様 2000 円 簡単なお食事とお飲み物をご用意いたします。

月例フットパス「南幌温泉・幌向運河をカンジキで歩く」 :1月17日(日)

新春を迎えた南幌をかんじきで歩きます。さらに、栗山の地酒 『北の錦』大吟醸の酒粕を使用した特製の甘酒を、今年もご用意いたします。

集合場所:南幌町ふるさと物産館「ビューロー」 午前10時 受付後、南幌温泉まで車で移動します。

参加費:500円 かんじきをお持ちでない方には当日受付にてお貸し致します (別途300円)

全道河川協力団体ミーティング 日にち:2月5日(金)

全国の河川協力団体の状況や、一般財団法人石狩川振興財団の取り組み状況を発表します。河川法に基づく河川協力団体制度の施行から2年が経過しようとするなか、今後の河川協力団体制度の方向性について改めて確認します。

日時:平成28年2月5日(金)14:00 ~ 14:40

会場:北海道開発局2階講堂(札幌市北区北8条西2丁目)

内容: 全国河川協力団体協議会の動向 全国河川協力団体協議会会長 山道省三
石狩川振興財団としての河川協力団体への協力・支援(案)

<コラム> 黒澤西蔵の「健土健民」思想と、国連食糧農業機関 (FAO)による「国際土壌年」のテーマが似ている?

北海道酪農義塾(現在の酪農学園大学)の設立者として知られる黒澤西蔵は、「健康な国民は健康な食生活から健康な食料は健康な農業から 健康な農業は健康な農地から 健康な農地は健康な農民から 健康な農民は健康な心身から まず心田を肥沃健康にせよ」と述べ、「健土健民」を説きました。この言葉は、足尾鉍毒問題で明治天皇に直訴したことで知られる田中正造に17歳で師事した黒澤翁によって、その後、田中翁の思想をまとめた言葉とされています。

さらに、黒澤翁は、「健土健民」を実現する具体的な方法が「循環農法」であり、「農業とは、天・地・人の合作によって、人間の生命の糧を生み出す聖業である。」と述べています。元酪農学園大学教授の干場信司さんは、この思想を「健康な『土・草・牛・乳・人』のつながりを、また同時に、健康な『自然-植物(作物)-動物(家畜)-食-人』のつながりを表しており、人は自然・植物・動物-食に支えられた存在であることを意味している」と解釈しています。

そして現代。2013年12月、第68会期国際連合総会において国連食糧農業機関(FAO)に事務局を置く地球土壌パートナーシップ(Global Soil Partnership)主導のもと、次の2つのことが宣言されました。「12月5日を世界土壌デーとする」「2015年を国際土壌年とする」。国際土壌年のテーマは、“Healthy soils for a healthy life”(健康な生活のための、健康な土壌)。国連決議文では、土壌が農業開発、生態系の機能や、食糧安全保障の基盤であり、“地球上の生命を維持する要”と記されています。さらに、土壌には、経済成長、生物多様性、持続可能な農業と食糧の安全保障、貧困撲滅、女性の地位向上、気候変動への対応、水利用の改善など、様々な問題を解決する可能性が秘められている、ともあります。黒澤西蔵と国際連合に関係があるのか調べられていませんが、田中正造が説いた理念が現在まで一貫して通用していると考えられるかもしれません。

南幌町では、自然栽培水田に取り組む佐藤正一さんをはじめ、「有機農法」に取り組む農家の方々がおられます。除草剤や農薬・化学肥料を使わない農地で生産される美味しい農産物は、人に健康をもたらすだけでなく、その沿線の自然環境も向上させています。人だけでなく、土のなかの微生物までも健康に働かせ、農作物が必要とする栄養分が自然と補われる仕組みづくりを目指す農業は、まさに「人間の生命の糧を生み出す」仕事と呼べるのではないのでしょうか。

さらに、かつて南幌町に広がっていた大規模な湿原を構成する土壌は、「泥炭」を主としています。泥炭は「特殊土壌」や「不良土壌」と呼ばれ、改良が前提とされてきました。しかし時代の変遷とともに、湿原は、二酸化炭素の固定源や水源涵養、生物多様性をもたらす土地として見直されています。今後ますます南幌町の価値が高まることを期待しています。

何かとお忙しい中とは思いますが、皆様のご予定調整・可能な限りの積極的なご参加を、何卒、よろしくお願い致します。

以上に関するお問合せ先 :090 - 3891 - 6675 近藤長一郎(事務局統括)